次学 アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2015.10.31 No.53

Japan Association of College and University Archives: Eastern Japan Division

目 次

・齊藤 研也「第2回全国大学史展「学生たちの戦前・戦中・戦後」に期待すること
一第 94 回研究会に参加して」
・山田明日香「真辺将之氏「早稲田大学における編纂事業のこれまでとこれから」
を聞いて」
・田中 智子「第2回全国大学史展(「学生たちの戦前・戦中・戦後」)を見学して」 5
・全国大学史資料協議会東日本部会 2015 年度総会議事録
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

2015年3月19日(木) 研究会

第2回全国大学史展「学生たちの戦前・戦中・戦後」に期待すること 一第94回研究会に参加して

第94回東日本部会研究会が、2015年3月19日(木)、武蔵野美術大学新宿サテライトを会場に開催された。本研究会では、この夏に開催される第2回全国大学史展「学生たちの戦前・戦中・戦後」について、展示実行委員会委員長の西山伸氏から、これまでの委員会の活動状況、開催時期や会場の報告、次いで展示の構成や展示資料の候補が披露され、最後に委員会の各担当を交えての討論が行なわれた。

この「学生たちの戦前・戦中・戦後」は、 当協議会二回目となる大学横断的展示で、加 盟会員による所蔵資料を通して、大学令の制 定後から戦争と戦後改革を経た高度経済成長

神奈川大学大学資料編纂室 齊藤 研也

期ころまでの歴史を取り上げるものである。 日本の大学の原型が形作られたその時代の学 生に焦点を当てることで、現在の大学や大学 生についても見つめ直すきっかけとなること を目指している。

筆者は展示実行委員会のメンバーであるが、この小文では、大学史業務に携わる者の 一人として、本展示に期待するところなどを 三点述べたいと思う。

さて、まずその一点目である。私たちは過去を見るとき、しばしば「変わったもの・変化したもの」に着目する。明治維新の改革や、ポツダム宣言の受諾、終戦、日本国憲法の制定など、変化を考察することは、歴史を考え

るうえで重要な意義の一つである。この展示 でも、「戦中の学生たち」のコーナーで、本 来学生生活とは遠いところにある戦争が学生 を巻き込んでいく様子が紹介され、その過程 は、"大学・学生と戦争"という歴史的にも 現代的にも重要な問題であることを教えてい る。しかし、この展示の重要なポイントは、 「学生たち」そのものをテーマに掲げたこと で、戦争が学生にもたらした「変化」だけで はなく、学生の正課や課外活動、そして様々 な日常といった=学生として「変わらないも の」を紹介することにあると考える。そうし た日常があるなか、たとえば戦争を考えるこ とでその時代をさらに立体的・複眼的にとら えることができるのではないだろうか。展示 される学生たちの「変わらないもの」=講義 ノート、教科書、課外活動の成果物や多くの 学生生活の写真などは、ともすれば一面的に 見てしまうその歴史を豊かに見る手がかりに なるように思われる。

二点目は、展示は加盟会員による様々な資料から構成されるということで、一大学の展示では空白となっていた資料などが相互に補い合い、資料の持つメッセージが明確になるということである。本学からは、「勅語を入れた桐箱」を展示する予定であるが、その勅語は、



報告する西山伸氏

東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター大学史史料室から提供予定である。これまで本学で展示するときは、「カラ」の桐箱のみを紹介していたが、今回の展示では、箱と勅語をセットに展示できるので、展示資料としての臨場感が増すと思われる。

三点目は、このように資料が一堂に会することで、他大学が所蔵する自分の学校と関わる未発見の資料などが出てくるのではないだろうか。展示は資料保存の観点から見た場合、考慮すべき問題が多々あるが、公開することを契機に、情報が行き交い新しい資料が発見されることを私たちは経験的に知っている。展示が資料発見の場となることも望みたい。

この展示会が、加盟会員や一般観覧者にとって、実りあるものとなることを期待したい。

2015年6月3日(水) 全国大学史資料協議会東日本部会 2015年度総会記念講演

真辺将之氏「早稲田大学における編纂事業のこれまでとこれから」 を聞いて

東京女子医科大学史料室・吉岡彌生記念室 山田明日香

2015 年度の全国大学史資料協議会東日本部会総会は早稲田大学 早稲田キャンパスの

大隈会館にて開催された。総会後、早稲田大 学文学学術院准教授・『早稲田大学百五十年

史』編纂専門委員 真辺将之氏による記念講演が行われた。

早稲田大学では、創立 150 周年を迎える 2032 年に向けて、本年度より『早稲田大学 百五十年史』編纂の活動が本格的に始められた。真辺氏は 1998 年より大学史資料センターで資料収集や編纂事業に携わられてきた経験から、過去の年史編纂事業を振り返り、百五十年史編纂の課題を考察された。以下、講演の流れに沿って、報告をまとめたい。

1. 前提としての「周年事業」

早稲田大学は他の私立学校に先駆け、記念 事業を盛大に行ってきた。最も古い記録は 1887年の創立五年記念事業だが、特に「早 稲田大学」と改称された1902年の開校二十 周年・早稲田大学開校紀念祝典は3日に亘 る盛大なもので、初の年史編纂もこの時であ る。その後の周年事業のいずれもが校友、周 辺地域、報道機関を巻き込む大きな行事とし て大学の規模を拡大させ、各周年事業毎に校 章、校歌など大学のシンボルが定められた。
 真辺氏によると、盛大な祝典は大学拡大のみ ならず、大学のアイデンティティ確立を目的 としていた。初期の早稲田大学は「学問の独 立」を理念として設立された。「独立」とい う言葉には政治権力からの独立と、日本語で の教育による西欧からの独立という意味が込 められていた。しかし時代の流れとともに、 大学昇格にあたり英語教育を必須とすること や、高度な教育のためには日本語の教科書で は事足りず、英語の教科書を使わねばならな いという状況になる。西欧からの独立という 理念と、相反する英語教育の必要性という現 実。また、官僚を養成する帝国大学と差別化 を図るため「模範国民の育成」を掲げ、同時 に規模が拡大する大学の一体化を確保すると



報告する真辺将之氏

いう課題もあった。こうした自体に直面した 早稲田大学には、周年・年史編纂事業を通し て大学を一つにまとめ、アイデンティティを 確立する必要があった。

2. 編纂事業のこれまで

過去の年史及び功労者にまつわる編纂事業が具体的に挙げられた。例えば、年史のはじめと位置付けられるが、当時の記録としての要素が強い『早稲田大学開校東京専門学校創立二十年紀念録』(早稲田学会、1903年)、事実上初の学校史の体裁を持つ『二十五年紀念早稲田大学創業録』(早稲田大学出版部、1907年)などがあるが、西村真次『半世紀の早稲田』(早稲田大学出版部、1932年)が初の本格的な早稲田大学史と言える。初めて大きな時期区分を行い、幅広い視野で大学史を描こうとした。

真辺氏は他にも、一般向けの読み易さと専門家向けの学術性のどちらを優先させるかなどにも触れ、過去には『大隈侯八十五年史』(大隈侯八十五年史編纂会、1926年)のように史実より読み易さを優先したため、関係者に不満を残した例も紹介した。これは後の年史編纂にも通じる問題となる。

戦後編纂された年史には、写真誌の要素が

強い『早稲田大学七十年誌』(早稲田大学発行、1952年)、「面白い読み物」として誰でも読めることを目指した『早稲田大学八十年史』(早稲田大学刊、1962年)、15年をかけて八巻完結となった『早稲田大学百年史』(早稲田大学、1982~1997年)などがある。特に『八十年史』では、「早稲田騒動」について『校粉録』(市島手記)など、未使用資料を用いて記述した点が新しい取り組みである。

真辺氏自身が編纂に携わられたのは 125 周年記念、2002 年刊行の『高田早苗の総合 的研究』(高田早苗研究部会) からである。

3. 『早稲田大学百年史』の特徴・問題点

『百年史』編纂には真辺氏自身も携わって いないため、当時の編纂過程を知る人への調 **査による報告であった。『百年史』は聞き取** りを中心に執筆が行われた。始めは一般向け 年史とされたが、編集方針が途中で変更され たため、全八巻のうち第一巻は主観的で読み 易い記述、第二巻以降は客観的史実に基づく 学術的記述内容となった。その他の特徴とし て、資料編を有さず史料は適宜本編に組み込 まれていること、執筆者は歴史の専門家中心 で教育史的視点が希薄なこと、これまでと比 較して本格的に「早稲田騒動」に触れ、過去 の騒動に対する視点を 180 度転換させたこ となどがある。戦時中についてもタブーなく 記述し、特に戦没者の名簿の編纂に力を入れ た。一方、編纂期間が長期に亘り後半の巻が 手薄となったこと、戦後の学生運動の記述は 個人情報などの関係から内容が薄く、各部局 史は記述形式や内容のばらつき・誤りが非常 に多い。また、他大学との比較の視点が少な く、留学生など海外の史料調査もほとんどな いといった問題点が挙げられた。

4. 『百五十年史』編纂の課題

『百五十年史』は三巻構成の予定である。第 一巻は『百年史』の戦前部分の圧縮版に細か い補足を加える。第二巻、第三巻は戦後につ いてで、二巻は『百年史』で手薄である部局 史を中心に、第三巻は全く手付かずの部分を 取り上げる予定である。過去の年史編纂を踏 まえ真辺氏が挙げた課題は、1)編纂体制の弱 さ、2) 自校の歴史検討が必要である説得性 を説明すること、3) 読者をどこに据えるか、4) 内部のことのみ書くべきか、私立大学の中で の位置づけを書くべきか、5) 政府の政策にど の程度踏み込んで書くべきか、6) 日本近現代 史と早稲田史との関連、7) 視野が大学側に偏 ることへの危険性、8) 部局史編纂の複雑さ、9) 議論のプロセスがわかる資料を収集する方法、 10) 聞き取り調査と秘密保持の問題、11) グ ローバル化の中での大学のアイデンティティ のあり方、と多岐に亘った。

最後に、これらの課題解決のためには学内だけでなく、大学の枠組みを超えた連携と情報提供が必要であり、国内にとどまらず、海外の大学についても年史編纂にいかなる意義を持たせ、予算を確保しているか調査する必要があると結ばれた。

真辺氏の講演は早稲田大学に限らず、各大学に共通の課題を投げかける非常に意義深い内容であった。この記念講演をきっかけにそれぞれの年史編纂への前向きな取り組みが行われ、大学相互間の情報交換がさらに活発になることが期待される。

2015年7月16日(木) 研究会

第2回全国大学史展(「学生たちの戦前・戦中・戦後」)を見学して

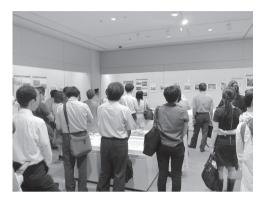
立教大学立教学院史資料センター 田中 智子

第95回東日本部会研究会においては、明治大学博物館特別展示室で開催中の第2回全国大学史展「学生たちの戦前・戦中・戦後」の見学が行われた。1時間ほどの見学時間の中で、実際に展示に携わった実行委員の方々から直接ご説明いただき、また普段目にすることのない他大学の資料にふれることができ、大変勉強になった。筆者は展示に関しては全くの素人ではあるが、以下、素人なりの感想および若干の批評を述べていきたいと思う。

最初に展示全体について述べておくと、戦前編・戦中編・戦後編と時代区分ごとに分かれており、その他、テーマ展示として学園祭編、都内名所・学校近隣編という2つの展示が設けられていた。戦前編・戦中編・戦後編にも学徒動員・戦後復興などの小テーマがあり、こういったテーマ別の展示にしたというのは非常に良かったと思う。テーマ別にしたことで、大学ごとのカラーの違いが見えてきて大変興味深かった。

中でも筆者が特に面白いと感じたのは、都内名所・学校近隣編に展示されていた昔の写真である。現在とは全く異なる街頭の風景が出ていて、おそらくこのコーナーが大学関係者ではない、一般の来場者が最も興味を示すところではないかと思う。ここで昔の写真と合わせて現在の写真も掲載されていれば、より興味を引きやすいものになったのではないか。これについては、資料を提供した大学側が、合わせて現在の写真も撮影して渡すようにすれば、実行委員の方の手間を省けると考える。また、東京の地理に不慣れな来場者のために地図を掲載して場所を示すのも、来場者の興味をかき立てるための一つの手である。

次に展示資料について述べると、やはり各 大学のアーカイブズが主体となってやってい るため、文書資料や写真パネルが中心であっ



見学会の様子

た。これは致し方がないことではあるが、も う少し物品など視覚的に訴えるものがほしい と思った。今回、エプロンモンペ(日本女子 大学成瀬記念館蔵)が展示されていたが、あ あいったものがあと数点あると非常に目を引 いてよいと思う。また、文書資料について も、学生新聞を複写したものなど、実際に手 にとって見られるものをいくつか作ってもよ いのではないかと思った。

視覚的に訴えるという意味では、各大学が 提供した映像を流すという試みは良かったと 思う。今回は場所や機材の都合からか、メインの展示スペースとは壁を隔てたところで映 像を流していたが、貴重な映像を隠れた場所 で流すのは少々勿体無い感じがした。メイン 会場で大きなスクリーンに映し出しても良 かったのではないだろうか。

以上、展示を見学しての率直な感想および 批評を述べさせていただいた。まだ改善の余 地があるとは思うが、こうして多くの大学が 集まって一つの展示を作り上げたこと自体、 素晴らしいことであると思う。企画・設営等 を担当された実行委員の方々に、この場を借 りて感謝の意を表したい。

全国大学史資料協議会 東日本部会 2015 年度総会議事録

日 時 2015年6月3日(水) 14時~15時

会 場 早稲田大学早稲田キャンパス 大隈会館(20号館)N301・N302 「部会総会の成立〕

*現会員数と出欠状況

機関会員 <総計> 66 <出席> 40

<欠席届>19

個人会員 <総計> 36 <出席> 9

<欠席届> 14

総 計 <総計> 102 <出席> 49 <欠席届> 33

- *総会定足数は、機関会員 66、個人会員 36 の総計 102 の過半数= 51 である。
- *部会規約第11条第5項に基づき、欠席届を委任状とするため、出席会員数(49)と 欠席届提出会員数(33)の合計は82となり、部会総会は成立した。
- 出席会員 愛知大学 学習院 神奈川大学 関東学院 国立音楽大学 慶應義塾 恵泉女学園 國學院大學 国際基督教大学 国士舘 芝浦工業大学 淑徳大学 女子美術大学 成城学園 聖心女子大学 聖路加国際大学 専修大学 創価大学 大東文化大学 拓殖大学 中央大学 東海大学 東京家政大学 東京女子医科大学 東京農業大学 東邦大学 東洋英和女学院 東洋学園大学 獨協学園 日本女子大学 日本大学 法政大学 武蔵学園 武蔵野美術大学 明治学院 明治大学 立教大学 立教学院 立正大学 早稲田大学

阿部武司 井谷次郎 清水善仁 染井千佳 高橋 保 谷本宗生 中村青志 西山 伸 細見大作 (出席者合計 70名)

開会の挨拶 小松 修氏

(会長 日本大学広報部大学史 編纂課)

会場校挨拶 大日方 純夫氏 (早稲田大学大学史資料セン ター所長)

> 議長の選出 議 長 平井 裕二氏 (中央大学広報室大学史資料課) 副議長 岸本 美香子氏 (日本女子大学成瀬記念館)

議事 1.2014年度事業報告書・同決算 報告について

事務局(神奈川大学)から、配布資料「2014年度事業報告書」に基づいて、昨年度の事業が報告され、会計委員(専修大学)から配布資料「2014年度収支決算書」(7頁【表1】)に基づいて昨年度の収支決算が報告された。次いで監査委員(大東文化大学)から決算が適正であった旨の監査報告(8頁【表2】)があり、各報告について満場一致で承認された。

2. 2014年度事業計画案・同予算案について

事務局(神奈川大学)から、配布資料「2014年度事業計画書(案)」に基づいて、本年度事業計画案が説明され、次いで会計委員(専修大学)から配布資料「2014年度収支予算書(案)」(9頁【表3】)に基づいて本年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画・予算案とも原案通り満場一致で承認された。

【表 1】

全国大学史資料協議会東日本部会

2014年度収支決算書 2014年4月1日~2015年3月31日

【収入】 (単位:円)

項目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費収入	1,510,000	1,520,000	△ 10,000	
法人等会員	1,320,000	1,340,000	△ 20,000	67 機関分× 20,000 円
個人会員	190,000	180,000	10,000	33 名分× 5,000 円+ 2013 年度分 3 名 15,000 円
利息収入	1,000	1,171	△ 171	
預貯金利息	1,000	1,171	△ 171	預金利息
参加費収入	450,000	484,000	△ 34,000	
部会総会参加費	150,000	204,000	△ 54,000	68 名分× 3,000 円 (5 月 29 日 立教大学池袋キャンパス)
全国総会参加費	300,000	280,000	20,000	56 名分× 5,000 円 (10 月 8 日~ 10 日 桃山学院大学他)
雑収入	0	0	0	
合 計	1,961,000	2,005,171	△ 44,171	

【支出】 (単位:円)

項目	予 算	決 算	差異	摘 要
運営費支出	120,000	9,565	110,435	
総会費	50,000	0	50,000	
幹事会費	20,000	6,553	13,447	コピー代、飲料代
部会研究会費	50,000	3,012	46,988	飲料代
謝礼支出	120,000	22,274	97,726	
講師謝礼等	120,000	22,274	97,726	東日本部会研究会講演会
消耗品費支出	10,000	7,279	2,721	
消耗品費	10,000	7,279	2,721	
印刷費支出	450,000	126,104	323,896	
印刷費支出	450,000	126,104	323,896	請求書、会報 No.51
通信費支出	120,000	99,785	20,215	
事務連絡費	120,000	99,785	20,215	切手、宅配便利用料金
手数料支出	10,000	3,456	6,544	
手数料等	10,000	3,456	6,544	金融機関送金手数料
参加費支出	600,000	376,349	223,651	
総会参加費	600,000	376,349	223,651	情報交換会・懇親会費
事業費支出	550,000	411,090	138,910	
出版事業	300,000	298,350	1,650	叢書
その他	200,000	112,740	87,260	大学史展実行委員会
ホームページ事業	50,000	0	50,000	今年度未払いのため来年度に上乗せ
30 周年記念事業積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予備費	50,000	_	50,000	
合 計	2,530,000	1,555,902	974,098	
当年度収支差額	△ 569,000	449,269	_	
前年度繰越収支差額	4,514,129	4,514,129	_	
翌年度繰越収支差額	3,945,129	4,963,398	_	

メメメメメメメメメメメメメメ大学アーカイヴズ № 53 **ドメメメメメメメメメメメメ**

【表 2】

2014 年度貸借対照表 2015年3月31日

【資産】

(単位:円)

項目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
30 周年記念事業積立金	2,500,000	2,000,000	500,000	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	4,941,147	4,503,799	437,348	
三井住友銀行	4,941,147	4,503,799	437,348	三井住友銀行 経堂支店普通預金
現金	22,251	10,330	11,921	
会 計 校	5,020	0	5,020	専修大学
事 務 校	15,855	0	15,855	明治大学
事 務 校	1,376	5,021	△ 3,645	神奈川大学
前事務校	0	5,309	△ 5,309	日本大学
合 計	7,463,398	6,514,129	949,269	

【負債・収支差額】

(単位:円)

項目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	2,500,000	2,000,000	500,000	
30 周年記念事業引当金	2,500,000	2,000,000	500,000	
収支差額	4,963,398	4,514,129	449,269	
収支差額	4,963,398	4,514,129	449,269	
合 計	7,463,398	6,514,129	949,269	

2015年4月8日

上記の通り報告します。

会計委員 専修大学 瀬戸口龍一 ⑩

専修大学 石綿 豊大 ⑩

東海大学 椿田 卓士 @

2015年5月29日

監査の結果、適正と認めます。

監查委員 大東文化大学 浅沼 薫奈 ⑩

武蔵野美術大学 太田 英輝 ⑩

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会

2015年度収支予算書(案) 2015年4月1日~2016年3月31日

【収入】 (単位:円)

271 7 12				
項目	2015 年度予算	2014年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,490,000	1,510,000	△ 20,000	
法人等会員	1,320,000	1,320,000	0	66 機関@ 2 万円(2014 年度 66 機関)
個人会員	170,000	190,000	△ 20,000	34名(2014年度33名@5千円、2014年度未納 1名@5千円)
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	430,000	450,000	△ 20,000	
部会総会参加費	180,000	150,000	30,000	60 名 @ 3,000 円 (2014 年度立教大学 68 名)
全国総会参加費	250,000	300,000	△ 50,000	50 名 @ 5,000 円 (2014 年度桃山学院ほか 56 名)
(印税収入)				2014年度より本項目削除
(印税収入)				
雑収入	0	0	0	
合 計	1,921,000	1,961,000	△ 40,000	

【支 出】 (単位:円)

項目	2015 年度予算	2014年度予算	増減	摘 要
運営費支出	100,000	120,000	△ 20,000	
総会費	30,000	50,000	△ 20,000	会場費・非課税講師交通費
幹事会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料他
部会研究会費	50,000	50,000	0	会場費・入場料・茶代他
謝礼支出	100,000	120,000	△ 20,000	
講師謝礼等	100,000	120,000	△ 20,000	講演料,原稿料,源泉税,課税交通費
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	450,000	450,000	0	
印刷費支出	450,000	450,000	0	会報印刷費(年2回分、No52未払い分)、封筒印刷費
通信費支出	140,000	120,000	20,000	
事務連絡費	140,000	120,000	20,000	会員連絡費、会報送料 (年2回分、No52未払い分) 他
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	500,000	600,000	△ 100,000	
総会参加費	500,000	600,000	△ 100,000	情報交換会費その他(5月部会総会、10月全国総会)
旅費交通費	200,000	0	200,000	内規の制定による新規項目
事業費支出	4,700,000	550,000	4,150,000	
出版事業	300,000	300,000	0	叢書編集印刷、リーフレット印刷、その他
その他	3,400,000	200,000	3,200,000	第2回全国大学史展
ホームページ事業	1,000,000	50,000	950,000	ホームページ改修作業、2014年度未払い金支払い分
30 周年記念事業積立金繰入支出	0	500,000	△ 500,000	
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	6,260,000	2,530,000	3,730,000	
当年度収支差額	△ 4,339,000	△ 569,000	-	
前年度繰越収支差額	4,963,398	4,514,129		
翌年度繰越収支差額	624,398	3,945,129	_	

3. 名誉会員の推薦について

事務局(明治大学)から、候補者の澤木武美氏および益井邦夫氏の会に対する功績等が紹介され、「幹事会において、名誉会員内規に定める資格を充分満たしていると判断し、総会に推薦することとした」との説明があった。審議の結果、澤木氏および益井氏の名誉会員への推薦が満場一致で承認された。

その他
特になし。

閉会の挨拶 渡邉 卓氏

(副会長 國學院大學校史・学 術資産研究センター)

記念講演 真辺 将之氏

(早稲田大学文学学術院准教授· 『早稲田大学百五十年史』編纂 専門委員)

演 題 「早稲田大学における編纂事業のこれまでとこれから―『早稲田大学百五十年史』にむけて―」

[概要] 本講演は、総会の会場校である早稲田大学の年史編纂事業のありかたと、その問題点や今後の課題について、活動の実例を示しながら行われた。講師の真辺氏は長年にわたり早稲田大学の大学史資料センターに勤務してきた経験を有し、かねてより準備を重ねてきた早稲田大学百五十年史編纂事業に参画されている。講演では、早稲田大学の年史編纂事業のありかたと、これまでの編纂事業を概観し、各周年事業と編纂物について説明した。はじめ年史編纂事業は、周年事業に付随して生まれ、大

学のアイデンティティ確立という使命を帯びていたとし、そのうえで百五十年史編纂に当たっての課題を列挙し、問題点を明らかにされた。課題としては、予算や構成、資料の問題、グローバル化など難点が多くあり、年史編纂には、大学の枠を越えた連携と情報提供の必要性があることを強調し、さらには、国内だけではなく海外の大学についても情報収集を行わなくてはならないと言及した。 (渡邉卓)

見 学 早稲田キャンパス内各施設

〔概要〕 2班に別れて、大隈講堂、建学の 碑、大隈記念館、大隈重信銅像など、 早稲田大学キャンパス内の施設や史 跡などを見学した。

> 大隈講堂では、普段は見ることが できない時計台の内部にまで案内し ていただいた。講堂には、1907 (明 治 40) 年の創立 25 周年に作製され た、最初の大礼服姿の大隈重信の銅 像も設置されている。正門脇に建て られている建学の碑は、1913 (大正 2) 年の創立30周年に際して制定さ れた、「学問の独立」、「学問の活用」、 「模範国民の造就」からなる「教旨」 の全文が刻まれている。会津八一記 念博物館に設けられた大隈記念室は、 創立 125 周年にあたりリニューアル された常設展示である。大隈重信の 生涯や事績をたどり、建学の精神を 体現する場となっている。

今回見学した建物や史跡は、いずれも早稲田大学を象徴するもので、

そのほとんどが文化財に指定されて おり、歴史と伝統を強く感じさせた。 (小松修)

情報交換会 早稲田キャンパス大隈会館(20号館)のN301・N302・N303において情報交換会を開催した。早稲田大学大学史資料センター事務長の長谷川友彦氏から開催の挨拶が、個人会員の中村青志氏から乾杯の発声があった。司会・進行は、武蔵野美術大学大学史史料室の阿久津朋子氏が務めた。新規入会会員、初参加会員等の挨拶があり、和気あいあいの雰囲気のなか情報交換会が行われた。最後に、早稲田大学大学史資料センターの檜皮瑞樹氏から閉会の挨拶があり、情報交換会を終了した。

全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録

第 144 回 2015 年 3 月 19 日 (木) 12 時 30 分~ 14 時 15 分

会 場 武蔵野美術大学 新宿サテライト room C・D会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學 専修大学 大東文化大学 東海大学 日本大学 法政大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 西山 伸

議 題(1)2015年度部会総会について

・担当(東海大学)より、2015年 度部会総会について、早稲田大学 を会場に検討を進めているとの報 告があり、4月中にお知らせ出来 るように努めるとした。

- (2) 2015 年度総会ならびに全国研究会について
- ・研究会テーマについて討議し、次 回幹事会に事務局にて候補を提示 することとした。
- (3) 2014年度研究会およびアンケート調査について
- ・事務局(明治大学)より、本日の 研究会について報告があった。運 営委員(東海大学)より過年度研 究会アンケート調査の説明があ り、今後の実施について提言があ り了承された。
- (4) 第2回全国大学史展について
 - ・実行委員長西山氏より、3月10 日実施の実行委員会、展示品候補 リストの調整について説明があっ た。展示設営業者を決定した。
- (5) その他
 - 事務局(神奈川大学)、運営委員(國 學院大學)より、益井邦夫氏(國 學院大學)の名誉会員推薦の提案 があり、承認した。
- ・事務局(明治大学)より、「公文 書管理法5年見直しについての 合同研究集会」活動への参加要請 について説明があった。討議の後、 国立大学関係者(機関会員、個人 会員)の状況・意見を調査し、要 請内容についても再度説明を求め ることとした。
- ・事務局(明治大学)より、協議会 ホームページの活用について提案 があった。事務の省力化のため経

常的に行うことを承認した。

- ・事務局(明治大学)より、武蔵野 美術大学作成によるリーフレット デザイン案の紹介があった。提案 どおり、作成することを承認した。
- ・事務局(神奈川大学)より、第 94回研究会について、会員外出 席希望者の報告があり、承認した。
- ・運営委員(日本大学)より、『研 究叢書』第15号の発行について 報告があった。
- ・運営委員(國學院大學)より、会報大学アーカイヴズ No.52 の編集状況について報告があった。
- ・次回(第145回) 幹事会を、 2015年4月16日(木)、開催 することにした。会場は、決定後 通知することとした。
- 第 145 回 2015 年 4 月 16 日 (木) 14 時 00 分~ 17 時 00 分
- 会場 明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 17 階 C5 会議室
- 出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學 專修大学 大東文化大学 東海大学 日本大学 法政大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 西山 伸
- 黙 祷 議事に先立ち、名誉会員であった 故竹市知弘氏(4月9日逝去)を追 悼し、出席者全員で黙祷を捧げた。
- 議 題(1)2015年度東日本部会総会について
 - ・担当(東海大学)から、2015年 度部会総会について、タイムスケ

- ジュールなどの説明があり、記念 講演などは会場側(早稲田大学) にて調整中との報告があった。未 定部分を早々に定め、4月中には開 催案内を通知することを確認した。
- ・事務局(神奈川大学)から、「2014年度事業報告書」「2015年度事業計画書(案)」「名誉会員の推薦について(案)」「旅費交通費支給内規」などを総会資料とする確認があった。報告書などについては、修正意見に基づき、作成することにした。
- (2) 2015 年度研究会分担・アンケー トについて
 - ・事務局(神奈川大学)から、研究会などの各幹事分担および研究会記録の執筆順について確認があった。 7月研究会は西山氏の担当とし、7月16日(木)に開催することにした。
 - ・事務局(神奈川大学)から、2015年度研究会アンケートについて、 集約結果の説明があり、返答数や 関心の高い研究会テーマ、見学希 望先の報告があった。次いで、事 務局(明治大学)から、年間研究 会テーマのテーマ案が提案され、 引き続き検討することにした。
- (3) 2014年度決算、2015年度予算編成について
 - ・会計(専修大学)から、2014年度決算・2015年度予算案について説明があった。予算案については、第2回全国大学史展、協議会ホームページの拡充、30周年記念事業積立金などの経費について種々の意見が出され、原案に反映

することにした。

- (4) 第2回全国大学史展について
 - ・実行委員会委員長の西山氏から、 実行委員会の開催状況および作業 の進捗について報告があった。
- (5) 2015 年度総会ならびに全国研究会について
 - ・事務局(明治大学)から、記念講演者・日程・見学先などの検討状況の報告があった。また、全国研究会テーマの事務局案が提案され、引き続き検討することにした。

(6) その他

- ・「公文書管理法5年見直しについての合同研究集会」活動への参加要請に対してのアンケート結果について、事務局(明治大学)から、会員意見の紹介があった。意見を集約し、参加しない方針を西日本部会へ伝え、協議会としての返答を先方へ行なうことにした。
- ・個人会員として、井谷次郎氏の入 会を承認した。
- ・リーフレットについて、事務局 (明治大学)から発行部数の確認 があった。
- ・会報の発行について、担当(國學院大學)から第52号を3月31日 付で発行したとの報告があった。
- ・協議会ウェブページ契約交渉について、事務局(明治大学)から、業者(馬場一貴氏)との交渉経過の説明があった。先方から示された契約書を確認し、修正案を提案することにした。

- 第 146 回 2015 年 6 月 3 日 (水) 12 時 00 分~ 13 時 15 分
- 会場 早稲田大学 早稲田キャンパス大隈会館(20号館) N301
- 出席 学習院 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學 専修大学 大東文化大学 東海大学 日本大学 法政大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 西山 伸
- 議 題(1)2015年度東日本部会総会について
 - ・担当(東海大学)より、タイムス ケジュールの確認があった。
 - ・事務局(神奈川大学)より、総会 資料の確認および故東田全義氏と 故竹市知弘氏に黙祷を行うことに ついて説明があった。
 - (2) 2015 年度総会ならびに全国研 究会について
 - ・事務局(明治大学)より、持ち回り審議による総会ならびに全国研究会テーマの確定について確認があった。記念講演について大平聡氏、見学先について仙台市博物館を候補とすることを承認した。報告者について意見交換し、事務局にて候補に折衝することとなった。
 - (3) 2015 年度研究会について
 - ・事務局(神奈川大学)より、持ち 回り審議による研究会テーマの確 定について確認があった。次回研 究会を、7月16日(木)とする ことを確認した。
 - (4) 第2回全国大学史展について
 - ・実行委員長西山氏より、現状報告

があった。ギャラリートークを設けることについて、承認した。事務局(明治大学)より、受付体制について説明があり、空き枠の候補を募る旨説明があった。

(5) その他

- ・事務局(神奈川大学)より、染井 千佳氏の個人会員・入会申し込み 承諾について、確認した。
- ・事務局(神奈川大学)より、阿部 武司氏の個人会員・入会申し込み 承諾について、確認した。
- ・事務局(明治大学)より、協議会 ウェブページ契約に関して、馬場 一貴氏より提案があった、同氏雇 用主である東京大学との契約交渉 不調経緯の説明があった。西日本 部会からも、企業との契約を望む 声が多かったことの説明があっ た。見積もり合わせの結果、日本 コンピューターサイエンス株式会 社と契約することを確認した。
- ・次回 (第147回) 幹事会を、2015 年7月16日(木)、明治大学駿 河台キャンパス内で開催すること とした。

第 147回 2015 年 7 月 16 日 (木) 13 時 00 分~ 14 時 00 分

会 場 明治大学駿河台キャンパスアカデ ミーコモン 2階 A2・A3 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學 大東文化大学 東海大学 日本大学 法政大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 西山 伸

議 題(1)2015年度東日本部会総会の総 括について

- ・事務局(神奈川大学)から、 2015年度東日本部会総会の総括 として、参加者数などの報告があ り、担当(東海大学)からは会計 報告があった。
- - ・事務局(明治大学)から、全国研究会テーマと発題、記念講演者・報告者・見学地の提案があり承認した。なお、発題について意見がある場合は、寄せてもらうことにした。個別報告のテーマは早々に確認を行ない、総括討論の司会者については、種々意見が出され、人選は会長・事務局に一任することにした。
 - (3) 全国研究会準備会について
 - ・本年度の準備会は、報告者が遠隔 地在住などのため、開催しないこ とにした。
- (4) 2015 年度研究会について
 - ・本日開催の研究会について、担当 の西山氏から次第などに関する報 告があった。
 - ・2014年度から研究会の企画・実施などは各運営委員の担当となったため、旧研究会担当の東海大学(椿田氏)から、企画手引きのマニュアル配布と説明があった。
 - ・12 月と 2016 年 1 月研究会について、意見交換を行ない、引き続き検討することにした。
- (5) 第2回全国大学史展について

・実行委員会委員長の西山氏から、 開催報告と現在までの観覧者数や マスメディア対応などの報告が あった。また、作成した展示パネ ル等の会期終了後の取り扱いにつ いて検討し、パネル等は原則廃棄 とすることにした。

(6) その他

- ・本日開催の研究会に会員外として、 山本昌弘氏(西日本部会・立命館 大学)および奥田環氏(お茶の水 女子大学)の参加が確認された。
- ・会員の入会について、事務局(神 奈川大学)から、機関会員として フェリス女学院資料室、個人会員 として森田慎二郎氏の入会希望が 伝えられた。フェリス女学院資料 室についてはすでに持ち回り審議 にて入会承認がなされたことの報 告があり、森田氏については審議 を行ない入会が承認された。
- ・第17回図書館総合展の後援名義の使用について、事務局(明治大学)から説明があり、東日本部会としては持ち回り審議にて承認された旨の報告があった。
- ・会員から内規の取り扱いについて 意見があり、内規を協議会ホーム ページの会員専用ページにて公開 することにした。
- ・協議会ウェブページについて、プログラマの馬場一貴氏と業務委託の変更契約を結ぶことを承認した。
- ・次回の幹事会などは、議題を確認 し、開催するかどうかを検討する ことにした(開催は9月9日予定)。

- 第 148 回 2015 年 9 月 9 日 (水) 14 時 00 分~ 15 時 30 分
- 会場 明治大学駿河台キャンパス 大学会館 3 階 第 2 会議室
- 出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學 専修大学 東海大学 日本大学 法政大学 武蔵野美術大学 明治大学
- 議 題(1)2015年度総会ならびに全国研究会について
 - ・事務局(明治大学)から、2015 年度総会ならびに全国研究会準備 について報告があった。
 - ・事務局(明治大学)から、総会な らび全国研究会における業務分担 について提案があり、承認された。
 - ・有償の東北大学構内マップの購入 については、予算面や参加人数な どを考慮して購入の見送りも含め て後日判断することとした。
 - (2) 2015 年度研究会について
 - ・12月研究会担当(東海大学馬場 氏)欠席のため代理として東海大 学椿田氏から、大学アーカイヴズ の移転をめぐる諸問題をテーマと した研究会の開催について提案が あり、承認した。

なお日程は、12月17日(木曜日)、会場は武蔵野美術大学新宿サテライトキャンパスを提供頂く方向で調整することとした。

・事務局(明治大学)から1月研究会について、専修大学・明治大学・中央大学・日本大学で実施している大学アーカイヴズ間共同研究の成果報告をテーマとした研究

会を1月研究会担当(法政大学) と協力して開催することについて 提案があり、承認した。

なお日程は、1月28日(木曜日)、会場は専修大学神田キャンパス5号館541教室を予定する。

- (3) 第2回全国大学史展について
 - ・展示実行委員会委員長の西山氏欠 席のため事務局(明治大学)から、 会期終了後の状況、観覧者数、マ スコミ関係取材、経費執行状況に ついて報告があった。
 - ・事務局(明治大学)から、観覧者に実施したアンケート集計にあたるアルバイトを雇用することについて提案があり、承認した。
 - ・事務局(明治大学)から、全国歴 史資料保存利用機関連絡協議会会 誌「記録と史料」第26号に、展 示のことを中心とした寄稿依頼に ついての報告と、展示実行委員会 名義で寄稿することについて提案 があり、承認した。
- (4) 研究叢書について
 - ・事務局(神奈川大学)から、研究 叢書第17号の編集を國學院大學 が担当することについて、提案が あり、承認した。併せて今後会報 編集担当が研究叢書の編集を兼ね る方向で検討したい旨、希望があ り、兼ねることを承認した。
- (5) その他
- ・第9回資料保存シンポジウムの 後援名義使用について 事務局(神奈川大学)から、情報 保存研究会・社団法人日本図書館協

会共催行事への後援承認について、 確認した。

・会員の入会について

事務局(神奈川大学)から、植木 槐氏の個人会員としての入会承認に ついて、確認した。

- ・協議会ウェブページについて 事務局(明治大学)から、ウェブページが納品され稼働していること、8月27日(木曜日)にウェブページの説明会を実施したことについて、報告があった。
- ・会報について 会報担当(國學院大學)から編集 状況の報告があった。
- ・全国研究会への会員外参加希望に ついて

2015 年度全国研究会に会員外と して参加を希望している堀之内敏恵 氏(岩手県立大学)、加藤諭氏(東 京大学文書館)の参加が承認された。

全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

第94回 2015年3月19日(木) 14時30分~16時30分

- 会場 武蔵野美術大学 新宿サテライト room C・D
- 出 席 学習院 神奈川大学 関東学院 國學院大學 国際基督教大学 芝浦工業大学 上智大学 女子美術大学 聖心女子大学 大東文化大学 中央大学 東海大学 東京女子医科大学 日本大学

法政大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 立教女学院 石田 順二 松崎 彰 西山 伸 橋本久美子 (会員外) 加藤 幸雄(亜細亜大学) (以上31名)

会長挨拶 小松 修

(日本大学広報部大学史編纂課)

司 会 村松 玄太

(明治大学史資料センター)

報告 大学史展実行委員会 「第2回大学史展について」 (第2回大学史展実行委員会委員長 西山 伸)

質疑応答 西山 伸・豊田 雅幸・ 齊藤 研也・松原 太郎

[概要] 今夏開催予定の第2回全国大学 史展「学生たちの戦前・戦中・戦後」 の展示企画について、実行委員より の報告会が催された。報告は、実行 委員会委員長の西山氏が行った。は じめに、実行委員会の開催状況やア ンケートの結果集計などこれまでの 準備状況や、開催期間や場所につい ての報告があった。続いて具体的な 展示構成について、通史的展示・ト ピック展示・映像資料の構成別に具 体的な展示候補物の紹介があり、展 示レイアウト図案などによる詳細な 説明がなされた。最後に、なるべく 多くの大学からの情報を盛り込める よう、さらに資料情報の収集と選別 を進めていくとともに、展示図録に ついても開催前の完成を目指すと述 べた。報告に続いての質疑応答は、 西山氏ほか実行委員が増上にあがっ

て進行した。出席者からは展示会のタイトル、大学紛争の取り扱いなどについての質問があり、議論がかわされた。実行委員からは、会の主催としてできるだけ会員の意向や情報を集約して開催に臨みたいとし、さらに検討を進めることを確認して研究会を終了した。

(椿田卓士)

第95回 2015年7月16日(木) 14時30分~17時00分

会 場 明治大学博物館特別展示室 (地下1階)、A2・A3会議室(2階) (明治大学駿河台キャンパス アカ デミーコモン)

出 席 学習院 神奈川大学 国立音楽大学 皇學館大学 國學院大學 国際基督教大学 国士舘 芝浦工業大学 自由学園 上智大学 女子美術大学 聖心女子大学 聖路加国際大学 大東文化大学 中央大学 東海大学 東京経済大学 東京女子医科大学 東京農業大学 東邦大学 東洋英和女学院 東洋学園大学 獨協学園 日本女子大学 日本体育大学 日本大学 フェリス女学院 法政大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教大学 立教学院 立正大学 松崎 彰 西山 伸 橋本久美子 馬場 弘臣 (会員外) 山本 昌弘(西日本部会) 奥田 環 (以上53名)

会長挨拶 小松 修

(日本大学広報部大学史編纂課)

司 会 大坪 潤子

(神奈川大学大学資料編纂室)

展示見学 第2回全国大学史展

「学生たちの戦前・戦中・戦後」

展示評 浅沼 薫奈(大東文化歴史資料館)

田中 智子

(立教学院史資料センター)

報告 西山伸

(第2回全国大学史展実行委員会 委員長)

村松 玄太

(明治大学史資料センター)

7月3日より開催中の第2回全 [概要] 国大学史展にあわせて、協議会会員 による同展示の観覧、実行委員によ る展示解説および展示評・討論を含 めた研究会が催された。まず第一部 として、参加会員は展示会場(明治 大学博物館特別展示室) に集合。展 示の各担当委員より、それぞれの担 当テーマ部分について解説をうけな がら展示を観覧した。続いて第二部 は会場を移し、各担当の実行委員よ りあらためて展示の説明とともに観 覧者数や広報状況、アンケート回収 状況などの概況報告がなされた。ま た、展示全体の企画経緯や実務につ いて、第1回開催時との違いなど をふまえた反省点も提示された。報 告後は、参加会員より本展示につい て、テーマの設定・企画構成内容 など第1回との比較を交えた寸評、 および感想を含めたコメントが述べ られた。続く全体の質疑応答では、

会員より観覧者の年齢構成などについて質問があったほか、今年度の研究会テーマである「大学史資料の相互利用」に関連した意見や第3回目の企画への将来的展望など、積極的な発言や意見交換がなされた。

(椿田卓十)

計 報

東日本部会名誉会員の竹市知弘さんが 2015年4月9日、個人会員の藤田正さん が2015年5月26日に逝去されました。 ここに謹んで竹市知弘さんと藤田正 さんへ哀悼の意を表します。

ご案内

全国大学史資料協議会および同協議会 東日本部会に関するお問い合わせ、入会 申し込みは、下記へご連絡ください。

【神奈川大学 大学資料編纂室】

〒 221-8686

横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

2 045-481-5661

【明治大学史資料センター】

〒 101-8301

東京都千代田区神田駿河台 1-1

3 03-3296-4085

会報編集

【國學院大學 校史・学術資産研究センター】 〒 150-8440

東京都渋谷区東 4-10-28

3 03-5466-6677